

教材・支援機器活用実践事例

【書字のバランスが困難な生徒へのアルファベットの学習支援】

子どもについて	学校・学級・学年	中学校 知的障がい学級 2、3年生	
	対象の障がい	知的障がい	
	授業形態	小集団学習 個別学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	誤字脱字が多く、書字のバランスも悪い生徒、ひらがな、カタカナとも書くことが難しく、適切な形で書くことが難しい実態である。自分の氏名、学習プリントや学級日記に記入する言葉は正しく、そして読み取れる文字を書くことを身につけさせたい。	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<ul style="list-style-type: none"> 英語のペンマンシップ ローマ字用ノート 色鉛筆 	
	活用のねらい	英語のアルファベットの大きい文字・小さい文字を正しい形、正しい位置に書かせることにより、文字を書くときの注意点や書字のバランスに気づくようにした。単語、英文を含めた書字の練習は、色鉛筆で書いたものをなぞり書き、視写を行うことで正しい形で書く習慣がつくようになる。アルファベットや英単語、英文を正しく書く方法で、日本語のひらがな、カタカナ、漢字も正しく書く方法やコツを身につけ、形のバランスがとれるようにする。ピリオドを学ぶことで、文の最後につける(。)に気づけるようにする。	
授業における支援	教材の配慮事項	<p>○プリントで書く練習をするときも、英語の4線を1階、2階、地下室とし、線と線の幅を広めにとって文字を大きく書かせることで、自分で正しく書けたかを確認できるようにする。</p> <p>○覚えにくい文字には始点や終点をつけたり、なぞり書き用の色鉛筆で書いた文字に矢印をつけたりし、正しい形で書く方法が理解できるようにする。日本語のカナ文字や漢字練習をするときも、その方法を生かせるようにする。</p>	
子どもの変容や評価	<p>アルファベットが正しい形、位置に書くことができ、英文を書くときのルールを守って英単語や英文を書くことができたようになったことから、英語の紹介文では、7文というまとまった文章で、きれいに書けるようになった。</p> <p>また、日本語についても、同様にアプローチすることで、なぞり書き、視写を繰り返すやり方が身につく、カナ文字や漢字の読み書き、学級日記の中での漢字を使う場面、など広がりが見られてきた。入学当初に比べ、きれいで読みやすい文字を書くことができるようになった。</p> <p>授業場面だけでなく、2学期後半からは家庭学習でも丁寧に書いて、書字のバランスを気をつけるようになってきた。</p>		